女川原子力発電所第2号	号機 工事計画審査資料
資料番号	02-エ-A-08-0020_改 0
提出年月日	2021年6月15日

工事計画に係る説明資料

原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備

(原子炉格納容器調気設備(原子炉格納容器調気系))

(本文)

2021年6月

東北電力株式会社

申請範囲

- 7. 原子炉格納施設
  - 7.3 圧力低減設備その他の安全設備
    - (8) 原子炉格納容器調気設備
      - a. 原子炉格納容器調気系
        - ニ 主要弁
        - ホ 主配管

## (8) 原子炉格納容器調気設備

a. 原子炉格納容器調気系

ニ 主要弁

			<u>хл</u>				変更前	変更後
名						称*1	T48-F001*2	
種					類		止め弁	
最	高	使	用	圧	力	kPa	427*3	
最	高	使	用	温	度	°C	171*3	
主	呼		び		径	*4	600A* <sup>5</sup>	
主要寸法	弁	箱		厚	さ	mm	*3	
法	弁	Ś	た	厚	さ	mm		
材	弁				箱	_	SCPH2	
材料	弁		Ś		た	_	—	変更なし
駆	Į	勆	方		法	_	空気作動	及文なし
個					数	_	1	
取	系 (	ラ~	統 イン	⁄ 名	名 )	_	*3 T48-F001 原子炉格納容器調気系	
付筒	設		置		床		*6 原子炉建屋 0.P.6.00m	
画	区	直		番	の 号	_		
		必星	要な		さ		ミリニキリント「ケルマントムズロ	

注記\*1:記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F001」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

 $^{\circ}$ 

							変更前	変更後
名						称*1	T48-F002*2	
種					類	_	止め弁	
最	高	使	用	圧	力	kPa	427*3	
最	高	使	用	温	度	°C	171*3	
主	呼		び		径	*4	600A*5	
主要寸法	弁	箱	Î	厚	さ	mm	*3	
法	弁	Ś	た	厚	さ	mm	_	
材	弁				箱	—	SCPH2	
材料	弁		s		た	—	—	変更なし
駆	Ē	動	方		法	—	空気作動	及文なし
個					数		1	
取	系 (	ラ	統 イン	⁄ 名	名 )		* <sup>3</sup> T48-F002 原子炉格納容器調気系	
付箇	設		置		床	_	*6 原子炉建屋 0.P8.10m	
断	区	直		番	の 号			
	溢 が	必	要な	この配いる。高	さ			

\*2 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「F002」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は,設 計図書による。

 $^{\circ}$ 

							変更前	変更後
名						称*1	T48-F003*2	
種					類	_	止め弁	
最	高	使	用	圧	力	kPa	427* <sup>3</sup>	
最	高	使	用	温	度	°C	171*3	
主	呼		び		径	*4	600A*5	
主要寸法	弁	箱	i	厚	さ	mm	*3	
法	弁	ş	た	厚	さ	mm	—	
材	弁				箱		SCPH2	
材料	弁		s		た	—	—	変更なし
駆	Ē	動	方		法		空気作動	<u> </u>
個					数		1	
取	系 (	ラ	統 イン	⁄ 名	名 )		* <sup>3</sup> T48-F003 原子炉格納容器調気系	
付箇	設		置		床		*6 原子炉建屋 0.P8.10m	
所	溢 区	水 画	防 i	養 上 番	の 号			
	溢 が	水防 必 望		:の酢 c 高	〕慮 さ		_	

\*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F003」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3:既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は,設 計図書による。

 $^{\circ}$ 

							変更前	変 更 後
名						称*1	T48-F010*2	
種					類	_	止め弁	
最	高	使	用	圧	力	kPa	427*3	
最	高	使	用	温	度	°C	171*3	
主	呼		び		径	*4	50A*5	
主要寸法	弁	箱	Î	厚	さ	mm	*3	
法	弁	Ş	た	厚	さ	mm	*3	
材	弁				箱	_	S25C	
材料	弁		Ś		た		S25C	変更なし
駆	Ĩ	動	方	•	法		空気作動	<u> </u>
個					数		1	
取	系 (	ラ・	統 イン	⁄ 名	名 )		*3 T48-F010 原子炉格納容器調気系	
付箇	設		置		床		*6 原子炉建屋 0.P8.10m	
所	溢区	直		簧 上 番	の 号			
	溢 が	水防 必 🗄	護 上 要 <i>た</i>	:の酢 c 高	〕慮 さ	_		

\*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F010」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は,設 計図書による。

							変更前	変更後
名						称*1	T48-F011*2	
種					類	_	止め弁	
最	峝	使	用	圧	力	kPa	427*3	変更なし
最	高	使	用	温	度	°C	171*3	
主	呼		び		径	<b></b> *4	50A*5	
主要寸法	弁	箱		厚	さ	mm	*3	
法	弁	Ş	た	厚	さ	mm	* 3	
材	弁				箱		S25C	亦再ない
材料	弁		s		た	—	S25C	変更なし
駆	Į	勆	方		法	—	空気作動	電気作動
個					数	—	1	変更なし
取	系 (	ラ ~	統 イン	⁄ 名	名 )	_	* <sup>3</sup> T48-F011 原子炉格納容器調気系	
付筒	設		置		床		*6 原子炉建屋 0.P8.10m	<mark>変更なし</mark>
所	溢 区	水『画	方.讃	養 上 番	の 号			
		水防 必 §		:の酢 c 高	l慮 さ			

\*2 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「F011」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

-

							変更前	変更後
名						称*1	T48-F012*2	
種					類	_	止め弁	
最	高	使	用	圧	力	kPa	427*3	
最	高	使	用	温	度	°C	171*3	
主	呼		び		径	*4	50A*5	
主要寸法	弁	箱	i	厚	さ	mm	*3	
法	弁	Ś	た	厚	さ	mm	*3	
材	弁				箱	_	S25C	
材料	弁		s		た	—	S25C	変更なし
駆	Ē	動	方		法	—	空気作動	及文/4 U
個					数		1	
取	系 (	ラ	統 イン	⁄ 名	名 )	_	*3 T48-F012 原子炉格納容器調気系	
付箇	設		置		床		*6 原子炉建屋 0.P8.10m	
所	溢 区	水 画	防 i	箑 上 番	の 号			
	溢 が		護 上 要 <i>た</i>	:の酢 c 高	l慮 さ			

\*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F012」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は,設 計図書による。

							変更前	変更後
名						称*1	T48-F016*2	
種					類	_	止め弁	
最	高	使	用	圧	力	kPa	427*3	
最	高	使	用	温	度	°C	171*3	
主	呼		V		径	*4	450A*5	
主要寸法	弁	箱	Î	厚	さ	mm	*3	
法	弁	Ş	た	厚	さ	mm	—	
材	弁				箱	_	SCPH2	
材料	弁		Ś		た		—	変更なし
駆	Ē	動	方	•	法		空気作動	XXIA U
個					数	_	1	
取	系 (	ラ	統 イン	⁄ 名	名 )		* <sup>3</sup> T48-F016 原子炉格納容器調気系	
付箇	設		置		床	_	*6 原子炉建屋 0.P.6.00m	
面所	溢 区	直		番	の 号			
(注意)	が	必	要す。	の配いる	さ		司司書には「タチャマレムエ日	

\*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F016」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3:既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「450」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は,設 計図書による。

 $^{\circ}$ 

	_							
							変 更 前	変 更 後
名						称*1	T48-F019*2	T48-F019*3
種					類		止め弁	変更なし
最	高	使	用	圧	力	kPa	427*4	変更なし 854 <sup>*5</sup>
最	高	使	用	温	度	°C	171*4	変更なし 200 <sup>*5</sup>
÷	呼		び		径	*6	600A*7	
主要寸法	弁	箱	Î	厚	さ	mm	*4	変更なし
法	弁	s	た	厚	さ	mm	_	
材	弁				箱		SCPH2	
材料	弁		s		た		—	<mark>変更なし</mark>
駆	III	動	方	î	法		空気作動	電気作動/遠隔手動
個					数		1	
取	系 (	ラ	統 イン	/ 名	名 )		*4 T48-F019 原子炉格納容器調気系	変更なし
付筒	設		置		床		*8 原子炉建屋 0.P.15.00m	
所	溢区	水   画	访 割 Î	養 上 番	の 号			R-1F-8
)) (1) (1)	溢 が	水防	護 上 要 <i>た</i>	の 面	]慮 さ			床上 <mark>2.66</mark> m 以上

 \*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F019」と記載。記載内容は、設計図書による。
 \*3:原子炉冷却材系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系,耐圧 強化ベント系)並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可 燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(原子炉格納容器フィルタベント系) 及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント 系)と兼用。

\*4 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5 :重大事故等時における使用時の値。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*7 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*8 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は,設 計図書による。

O 2 ① II R

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

							変 更 前	変 更 後
名						称*1	T48-F020*2	T48-F020* <sup>3</sup>
種					類		止め弁	
最	高	使	用	圧	力	kPa	427 <mark>*<sup>4</sup></mark>	
最	高	使	用	温	度	°C	171 <mark>*4</mark>	
主	呼		び		径	<mark>*</mark> 5	300A <mark>*6</mark>	
主要寸法	弁	箱	Ī	厚	さ	mm	*4	
法	弁	S	た	厚	さ	mm	_	
材	弁				箱	_	SCPH2	
材料	弁		s		た	_	_	
駆	Ē	勆	方		法	_	空気作動	変更なし
個					数		1	
取	系 (	ラ~	統 イン	⁄ 名	名 )		<mark>*4</mark> T48-F020 原子炉格納容器調気系	
付箇	設		置		床	_	<mark>*7</mark> 原子炉建屋 0. P. 22. 50m	
画	溢 区	直		番	の 号			
	溢 が	水防 必 5		:の 香				

- \*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F020」と記載。記載内容は,設計図書による。 \*3:原子炉冷却材系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系)及び 圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント系) と兼用。
- \*4 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
- \*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7:記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

-

							変更前	変更後
名						称*1	T48-F021*2	T48-F021 <sup>*3</sup>
種					類		止め弁	
最	高	使	用	圧	力	kPa	427 <mark>*4</mark>	
最	高	使	用	温	度	°C	171 <mark>*4</mark>	
主	呼		び		径	<mark>*</mark> 5	600A <mark>*6</mark>	
主要寸法	弁	箱	i	厚	さ	mm	*4	
法	弁	Ś	た	厚	さ	mm	_	
材	弁				箱		SCPH2	
材料	弁		Ś		た		_	
駆	Į	勆	方	-	法		空気作動	変更なし
個					数		1	
取	系 (	ラ	統 イン	⁄ 名	名 )		<mark>*4</mark> T48-F021 原子炉格納容器調気系	
付箇	設		置		床	_	<mark>*7</mark> 原子炉建屋 0. P. 15. 00m	
面所	溢 区	直		番	の 号			
	溢 が		要な	この酉	さ	—		

- \*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F021」と記載。記載内容は,設計図書による。 \*3:原子炉冷却材系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系)及び 圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント系) と兼用。
- \*4 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
- \*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7:記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

-

							変 更 前	変 更 後
名						称*1	T48-F022*2	T48-F022*3
種					類		止め弁	変更なし
最	高	使	用	圧	力	kPa	427*4	変更なし 854 <sup>*5</sup>
最	高	使	用	温	度	°C	171*4	変更なし 200 <sup>*5</sup>
主	呼		び		径	*6	600A*7	
主要寸法	弁	箱	Î	厚	さ	mm	*4	変更なし
法	弁	s	た	厚	さ	mm	_	
材	弁				箱	_	SCPH2	赤田とし
材料	弁		Ş		た		_	<mark>変更なし</mark>
駆		動	方	ī	法		空気作動	電気作動/遠隔手動
個					数	_	1	
取	系 (	ラ	統 イン	/ 名	名 )	_	*4 T48-F022 原子炉格納容器調気系	変更なし
付箇	設		置		床	_	*8 原子炉建屋 0.P8.10m	
所	溢区	水   画		蒦 上 番	の 号	—		R-B3F-10
	<u>溢</u> が	水防	護上 要 <i>†</i>	の香	已慮 さ			床上 <mark>6.40</mark> m 以上

 \*2:記載の適正化を行う。既工事計画書には「F022」と記載。記載内容は、設計図書による。
 \*3:原子炉冷却材系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系,耐圧 強化ベント系)並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可 燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(原子炉格納容器フィルタベント系) 及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント 系)と兼用。

\*4 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5 :重大事故等時における使用時の値。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*7 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*8 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は,設 計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

							変更前	変 更 後
名						称*1	T48-F004A, B* <sup>2</sup>	
種	種			類	_	逆止め弁		
最	高	使	使 用 圧		力	kPa	427*3	
最	高	使	用	温	度	°C	104*3	
主	呼		び		径	*4	600A*5	
主要寸法	弁	A 箱 厚			さ	mm	*3	
法	弁	Ś	た	厚	さ	mm	*3	
材	弁				箱		SCPH2	
材料	弁ふ				た	—	SCPH2	<b>*</b> 7
駆	·	動	方		法	—	空気作動	
個					数		2	
取	系 統 (ライン名			名 )	_	<mark>*3</mark> T48-F004A, B 原子炉格納容器調気系		
付箇	設	設置				_	*6 原子炉建屋 0.P8.10m	
所	溢 区				の 号			
					l慮 さ			

\*2 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「F004A,B」と記載。記載内容は,設計図書による。

\*3 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7 :記載の適正化を行う。本設備は設計基準対象施設として工事計画の記載範囲外である。

-

							変更前	変 更 後
名						称*1	T48-F005A, B* <sup>2</sup>	
種					類	_	止め弁	
最	高	使	用	圧				
最	高	使	用	温	度	°C	104*3	
主	呼び			径	*4	600A*5		
主要寸法	弁	牟 箱 厚			さ	mm	*3	
法	弁	Ş	た	厚	さ	mm	—	
材	弁	弁				_	SCPH2	
材料	弁 ふ			た		—	*7	
駆	E	動	方	î	法		空気作動	
個					数	_	2	
取	系 統 (ライン名			名 )		<mark>*3</mark> T48-F005A, B 原子炉格納容器調気系		
付箇	設	設 置				_	*6 原子炉建屋 0.P8.10m	
断	溢水防護上			の 号				
溢水防護上の配慮    が 必 要 な 高 さ     対われ1 - わまのきエルな行き 町工ま					さ		引売または「タサマはみ巫日	

\*2 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「F005A, B」と記載。記載内容は,設計図書による。

\*3 :既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 :記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6:記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7 :記載の適正化を行う。本設備は設計基準対象施設として工事計画の記載範囲外である。

Η

## ホ 主配管

			変更前			変更後											
	名称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ <sup>*2</sup> (mm)	材 料		名称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材	料			
	*3 ~ T48-F001 ~ T48-F002出口側合流点	427 *4	171	609. 6 / 609. 6 / 457. 2 609. 6 * <sup>6</sup> 609. 6 / 609. 6 / 609. 6	$ \begin{array}{c}                                     $	SM41C				変更なし							
原子炉格納容器調気系	*3 T48-F002出口側合流点 ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-80)	427 * <sup>4</sup>	171	61. 1 <sup>*7</sup> 609. 6	(6. 1) *7 *5 (9. 5)	S25C SM41C	炉格納	*8 T48-F002出口側合流点 ~ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-80)	変更なし 854 <sup>*9</sup>	変更なし 200 <sup>*9</sup>	変更なし						
器調気系			171	609.6 *6 609.6	(9.5)	SM41C *6 *6 SM41C	器調気系					<mark>変更なし</mark>					
术	*10 ドライウェル入口配管分岐点 〜 サプレッションチェンバ	427 *4	104	609.6 609.6 / 609.6 / 609.6 *6 609.6	$\begin{array}{c} *^{5} (9,5) \\ *^{5} (9,5) \\ *^{5} (9,5) \\ *^{5} (9,5) \\ *^{5} (9,5) \\ *^{5} (9,5) \end{array}$	SM41C SM41C		ドライウェル入口配管分岐点 ~ サプレッションチェンパ	変更	なし	変更なし 変更なし <mark>変更なし</mark> 変更なし	(31. 0) (31. 0) (31. 0) (31. 0) (31. 0) * 11 (31. 0)	SM40 SM40 SM40	•0C *11			
	* <mark>12</mark> 原子炉建屋内 ~ サプレッションチェンバ入口 配管合流点1	427 *4	104	609.6	*5 (9.5)	SM41C			·	変更なし							

			変更前							変更後								
	名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料		名称		最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料				
	* <mark>12</mark> 原子炉建屋内	427 *4	104	609.6	*5 (9.5)	SM41C		原子炉建屋内				変更なし						
	ペー サプレッションチェンバ入口 配管合流点2	427 *4	104	61. 1 <sup>*7</sup>	(6.1) *7	S25C		ペー サプレッションチェンバ 配管合流点2	入口	<mark>427</mark>	<mark>104</mark>	<mark>609.6</mark> 変更なし	(31. 0)	SM400C				
	* <mark>13</mark> T48-F016 ~ ドライウェル入口配管合流点	427 *4	171	457.2 *6 457.2		*14 SM400C *6, *14 SM400C				変更なし								
				60.5	(5.5)	STS42						変更なし	変更なし	変更なし STS410				
原子炉格納容器調気系	* <mark>15</mark> T48-F010 ~ T48-F011入口側合流点	427 *4	171	61. 1*7 / 61. 1*7 61. 1*7 61. 1*7 61. 1*7 / 61. 1*7 / 61. 1*7 / 61. 1*7	$(6. 1) *7 \\ (6. 1) *7 \\ (6. 1) *7 \\ (6. 1) *7 \\ (6. 1) *7 \\ (6. 1) *7 \\ (6. 1) *7 \\ (6. 1) *7 \\ (6. 1) \\ (6. 1)$	S25C S25C * <mark>11</mark> S25C	原子炉格納容器調気系	変更なし		変更	なし	変更なし * <mark>II *II</mark>						
	* <mark>18</mark> T48-F011入口側合流点 ~		1		(0.1)	0200		T48-F011入口側合流点 ~	*8	427 854* <sup>9</sup>	171 200* <sup>9</sup>	60.5 60.5 / 60.5 / 60.5	(5.5) (5.5) (5.5) (5.5) (5.5)	STS410 STS410				
	T48-F002出口側合流点	427 *4	171	60.5	(5.5) *7, * <mark>11</mark>	STS42		T48-F002出口側合流点		変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	STS410 *11				
		421	1/1	*7, * <mark>11</mark> 61. 1	(6. 1)	825C				854* <sup>9</sup>	200*9	* <mark>11</mark> 60. 5	* <mark>11</mark> (5. 5)	sts410				
	* <sup>16</sup> ドライウェル補給用窒素配管		171	60.5	(5.5)	STS42												
	トワイリェル補給用室※配管 分岐点 ~	427 *4	104	60.5 *7, * <mark>11</mark>	(5.5) *7, * <mark>11</mark>	STS42					変更なし							
	原子炉建屋内吸入配管合流点			61.1	(6.1)	S25C												

			変更前				変 更 後												
	名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料		名 称	最高使用 圧 力 (kPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料						
	*17 原子炉格納容器配管貫通部 (X-81) ~ ドライウェル出口配管分岐点	*17     609.6     *5 (9.5)     SM400C       *6     *6     *6     *6     *6       427 *4     171     609.6     *5 (9.5)     SM400C       *5 (9.5)     SM400C     *6     *6     *6       *5 (9.5)     SM400C     *6     *6       *5 (9.5)     SM400C     *5     *5						*18 原子炉格納容器配管貫通部 (X-81) ~ ドライウェル出口配管分岐点	変更なし 854 <sup>*9</sup> 変更なし 200 <sup>*9</sup> 変更なし										
	* <sup>17</sup> ドライウェル出口配管分岐 点 ~ T48-F046	427 * <sup>4</sup>	171	609. 6	* <sup>5</sup> (9.5)	* <mark>14</mark> SM400C				変更なし									
		427 *4	104	*6 609.6 609.6	*5 (9.5)     *5 (9.5)	*6 SM41C SM41C	-		変更なし 854 <sup>*9</sup>	変更なし 200 <sup>*9</sup>	* <mark>11</mark> 変更なし 変更なし	* <sup>11</sup> (31. 0) (31. 0)	* <mark>11</mark> SM400C SM400C						
原子恒				_			原子	-	427 854*9	171 200*9	609.6 * <mark>11</mark> 609.6	(31. 0) * <sup>11</sup> (17. 5)	SM400C * <mark>11</mark> SM400C						
原子炉格納容器調気系	*19 原子炉格納容器配管貫通部 (X-230) ~ ドライウェル出口配管分岐点	427 *4	171	609. 6 609. 6 *6 609. 6 609. 6 *20 609. 6	$ \begin{array}{c}                                     $	SM400C         Product           *6         *6, *14         F           SM410C         SM400C         Product           20         *14         SM400C		* <sup>18</sup> 原子炉格納容器配管貫通部 (X-230) ~ ドライウェル出口配管分岐点	変更なし 854 <sup>*9</sup>	変更なし 200 <sup>*9</sup>	600. C	変更なし							
				_	_				427 854* <sup>9</sup>	171 200* <sup>9</sup>	609. 6 / 609. 6 / 406. 4	(17.5) (17.5) (12.7)	STS410						
	* <sup>21</sup> サプレッションチェンバ出 口配管分岐点1 ~ T48-F045	427 * <sup>4</sup>	171	318.5 318.5 *6 318.5	*5 (10.3) (10.3) *6 (10.3)	*14 SM400C *22 STS410 *6, *22 STS410	-	変更なし											

		~ パージ用液体窒素蒸発器
		パージ用液体窒素蒸発器
		* <mark>13</mark> パージ用液体窒素蒸発器 ~ T48-F016
		*25
二 火 木	原子沪各納.	液体窒素貯槽出口配管分岐点 ~ 常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用)
	容器調気	常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用)

Ц  $\Theta$ 0 2

			変更前										変	更 後								
	名称	最高使用 圧 力	最高使用 温 度	外 径*1	厚 さ*2	材 料		名		称	最正	高使用 力		高使用 度		外	径*1	厚	さ*2	材		料
		(kPa)	(°C)	(mm)	(mm)			1			(kPa	(kPa)		(°C)		(mr	n)		(mm)			
	液体窒素貯槽 ~	1.87 *4 (MPa)	66	76.3	(5.2)	SUS304TP							変更なし* <sup>23</sup>									
	パージ用液体窒素蒸発器	1.77 *4 (MPa)	66	76.3	(5.2)	SUS304TP	SUS304TP															
				76.3	(5.2)	SUS304TP																
	パージ用液体窒素蒸発器	1.77 *4	66	165.2	(7.1)	SUS304TP			変更なし <sup>*23</sup>													
		(MPa)		34.0	(3.4)	SUS304TP		変更なし														
				216.3	(8.2)	SUS304TP																
		1.77 *4	66	216.3	(8.2)	SUS304TP																
		(MPa)		89.1 89.1	(5.5)	SUS304TP SUS304TP																
	* <mark>13</mark>	0.86 *4		216.3	(8. 2)	SUS304TP SUS304TP																
	パージ用液体窒素蒸発器 ~	(MPa)	66	216.3	(8.2)	*24 STPT370				変更なし*23												
	T48-F016	427 *4	66	457.2	* <sup>5</sup> (9.5)	* <mark>14</mark> SM400C																
		427	66	457.2	(14. 3)	* <mark>14</mark> SM400C																
原子	*25 液体窒素貯槽出口配管分岐点 ~	1.77 *4	66	60.5	(5.5)	SUS304TP	原之						枩	を更なし*	*23							
炉格納	常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用)	(MPa)		34.0	(4.5)	SUS304TP	」 炉格納															
原子炉格納容器調気系	常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用)	1.77 *4 (MPa)	66	80.0 60.0 31.0 31.0	$ \begin{array}{c}             *^{5} & (6.0) \\             *^{5} & (4.0) \\             *^{5} & (3.0) \\             *^{5} & (3.2) \end{array} $	A6063TE A6063TE A6063S A6063TE	原子炉格納容器調気系		変更なし <sup>*23</sup>													
		1.77 * 4		34. 0 60. 5	(4.5) (5.5)	SUS304TP SUS304TP *26																
	* <mark>15</mark> 常時補給用液体窒素蒸発器 <mark>(送ガス用)</mark>	(MPa)	66	60. 5 60. 5	(5.5)	STPL380 *24 STPT370			変更なし* <sup>23</sup>													
	~ T48-F010	427 <sup>*4</sup>	66	60. 5	(5.5)	*24 STPT38 STPT370							~									
				21.7	(3.7)	*24 STPT370																
	*20 常時補給用液体窒素蒸発器出 口配管分岐点 ~	1.77 *4 (MPa)	66	60. 5	(5.5)	*24 STPT370			変更なし <sup>*23</sup>													
	T48-F030																					

- 注記\*1:外径は公称値を示す。
  - \*2 :( )内は公称値を示す。
  - \*3:記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋原子炉棟換気空調系からドライウェルまで(ドライウェル入口配管)」と記載。
  - \*4 : S I 単位に換算したものである。
  - \*5:既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成3年6月19日付け3資庁第1003号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-2-2-2-1 管の基本板厚計算書」による。
  - \*6 : エルボを示す。既工事計画書にはエルボを含めた管仕様を記載しているため、記載の適正化を行う。
  - \*7 : 差込継手の差込部内径及び最小厚さ。
  - \*8:原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系)並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(可搬型窒 素ガス供給系,原子炉格納容器フィルタベント系)及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント系)と兼用。
  - \*9 : 重大事故等時の使用時の値。
  - \*10:記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェル入口配管からサプレッションチェンバまで(サプレッションチェンバ入口配管)」と記載。
  - <mark>\*11</mark>:エルボを示す。
  - \*12:記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋内からサプレッションチェンバ入口配管まで(原子炉建屋内吸入配管)」と記載。
  - \*13:記載の適正化を行う。既工事計画書には「パージ用液体窒素蒸発器からドライウェル入口配管まで」と記載。
  - \*14:記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41C」と記載
  - \*15:記載の適正化を行う。既工事計画書には「常時補給用液体窒素蒸発器からドライウェル入口配管まで(ドライウェル補給用窒素配管)」と記載。
  - \*16:記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェル補給用窒素配管から原子炉建屋内吸入配管まで」と記載。
  - \*17:記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェルから原子炉建屋原子炉棟換気空調系まで(ドライウェル出口配管)」と記載。
  - \*18:原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系,耐圧強化ベント系)並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再 循環設備(原子炉格納容器フィルタベント系)及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント系)と兼用。
  - \*19:記載の適正化を行う。既工事計画書には「サプレッションチェンバからドライウェル出口配管まで(サプレッションチェンバ出口配管)」と記載。
  - \*20: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。
  - \*21:記載の適正化を行う。既工事計画書には「サプレッションチェンバ出口配管から非常用ガス処理系まで」と記載。
  - \*22:記載の適正化を行う。既工事計画書には「STS42」と記載
  - \*23:本設備は記載の適正化を行うものであり、手続き対象外である。
  - \*24:記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPT38」と記載
- \*25:記載の適正化を行う。既工事計画書には「液体窒素貯槽出口配管から常時補給用液体窒素蒸発器(送ガス用)まで」と記載。
- \*26:記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPL39」と記載

R